

内容	発言者 (敬称略)	議事録
<b>【動線】</b>		
ピアノは倉庫からロビーまで問題なく運べるようにしていただきたい。	伊藤	P9
大ホール、小ホール、大スタジオのそれぞれにピアノを移動させて使う可能性があるのですが、フルコンサートピアノを運べる通路の確保が、必ず必要である。	井上	P16
<b>【大ホール】</b>		
オーケストラ、ミュージカル、オペラ、歌舞伎、能舞台を造っての公演などが行え、市民が観賞できること。合唱祭、演劇大会、市民大会など、皆市民活動の全体的な活動の場となること。市民創作のオペラやミュージカルなどを上演すること。これらがホールに求められている。	伊藤	P6
市民の様々なものを観賞したいという欲求に答えられるホールであること。	井上	P8
オペラ、バレエが上演できる施設を整えること。	井上	P8
オーケストラピットはオペラやバレエの際にしか使用しないと思われるが、張出し舞台としても利用できる。オーケストラピットはオペラという固定的な考えではなく、このような使い方もできるということを考えながら設計していただきたい。	伊藤	P8
オーケストラピットはパフォーミングアーツ、特にオペラやバレエを上演する際には必ず必要になる。また、張出し舞台として使えることにも利用価値がある。	井上	P9
吹奏楽にて、演奏者がフォーメーションを組んで動きながら演奏する、ドリル演奏を行うためには、広い舞台スペースが必要となってくる。	井上	P9
今は何でも有りの時代なので、キャパシティの大小は別として、最低限必要なものは揃えねばならない。	井上	P9
基本計画時から、残響可変ができ、多用途に利用できること、とされていた。	伊藤	P10
「1階だけ利用しても使い勝手がよいホールと」して設計していただいている。	伊藤	P10
親子室が4階にあるのは直していただきたい。(←事務局から、現在2階に変更になっているとコメント有り)	伊藤	P10
可動式の音響反射板はあるのか。(←事務局から設置予定とコメント有り)	井上	P10
音楽以外の催しの際に、残響を減らすための吸音方法を考えねばならない。今一度確認していただきたい。	伊藤	P10
歌舞伎や、伝統的な演目を仮設舞台でも良いので上演できるようにしていただきたい。	井上	P11
所作台は、能、箏曲、謡曲等にも使える。センターにて伝統芸能が上演されない、というのは考えられない。	井上	P11
<b>【小ホール】</b>		
基本設計時に、小ホールは「音楽重点の固定席」、大スタジオは、「演劇やダンス等の発表が可能な平土間空間とし、ギャラリー等との連携や、簡単な飲食等も可能な自由な発想ができる空間とする」、という棲み分けを行った。小ホールと大スタジオは、双生児のような関係になっている。	伊藤	P13
残響可変ができる必要がある。	伊藤	P12
伝統芸能も意見が出されているが、小ホールの音響をきちんと確保し、三味線や琴、謡など、伝統楽器の発表会やプロの演奏会も十分行える機能をつけていただけるはず。	伊藤	P7
実際にホールがオープンすると、様々なことが起きる。そのためには、椅子を取り外すことで対応する、といったことも考えねばならない。	井上	P12
<b>【大スタジオ】</b>		
基本設計時に、小ホールは「音楽重点の固定席」、大スタジオは、「演劇やダンス等の発表が可能な平土間空間とし、ギャラリー等との連携や、簡単な飲食等も可能な自由な発想ができる空間とする」、という棲み分けを行った。小ホールと大スタジオは、双生児のような関係になっている。	伊藤	P13
大スタジオは演劇やコンテンポラリーダンス、ジャンル横断の催し、ギャラリーと連携しての展示やインスタレーション、簡単な飲食をしながらのジャズ公演、などを想定している。そのために、照明のバトン等はしっかりとある必要	伊藤	P13
公演の他、稽古場としても利用できるし、レセプションもできる。飲食しながらの音楽公演や映画上映なども想定	井上	P13
「大スタジオが空にできること」という条件は絶対である。合理的に物をしまえる場所を、勇気をもって作らねば、運営するのが大変である。	三ツ山	P13
運営する側として、多くの備品等をどう扱うのか、そのイメージを伝えねばならない。大スタジオに可能性を持たせるためには、それを支えるバックヤードがなければならない。	三ツ山	P13
壁がギャラリー仕様ならば、映像の上映もできる。	三ツ山	P14
<b>【ギャラリー】</b>		
ギャラリーの壁は仮設・可動ではなく、動かない、しっかりとした壁を造っていただきたい。4面のうち2面が可動壁という発想は、「創造センター」におけるギャラリーとして、希薄な場所であると言わざるを得ない。	三ツ山	P3/P15
ギャラリーは、ただ壁があり作品が吊れる仕掛けがあれば良いというわけではない。	三ツ山	P3
ギャラリーの幅が10mあればそれなりの醍醐味がある空間ができるので、それは最低限だ、という話は設計者に申し上げた。ただし、ギャラリーの中に可動壁をつくり、小ホール側の廊下にも展示を行ったとして、100号が60枚程度しか飾れない。	三ツ山	P4
ギャラリーとしては、しっかりとしたホワイトキューブを要求すべき。	三ツ山	P4
搬入経路、水場、備品置場等が必要。	三ツ山	P4
全体を400㎡のギャラリーとした場合、100㎡はバックヤードで確保せねば、あらゆる活動を支えられない。	三ツ山	P4
最近、映像を用いた展示が多くあるので、映像ができる設備が必要である。	伊藤	P15
ギャラリーはプレハブではない。今のギャラリーに賛同はしていない。	三ツ山	P15
<b>【エントランス】</b>		
ロビーでピアノの演奏ができるように。	伊藤	P6
<b>【その他のスペース】</b>		
ワークショップルーム等の諸室は非常に大切である。会議が行える、机と椅子があり作業できる、ポスタープリンターを利用できる設備などの場所が必要となる。	三ツ山	P5
作品を創る上では稽古場が必要である。	井上	P8
大ホールの他に小ホールやスタジオなどの稽古をするための場があれば全国大会も誘致できる。	井上	P8
小田原には相模人形芝居という国の指定を受けている座がある。どこかの場所でそれが上演できる形を考えていかねばならない。	井上	P12
中スタジオ、小スタジオは練習室のように稽古場や、物を創る時に作業する場所としても使えることが必要となってくる。また、このような部屋は、可能な限り多くあった方がよい。	井上	P14
テレビ放送に対応できるようにする。例えば、ケーブルの引き回し、大型車の乗り入れがあること、スタッフが動きやすい施設であることを考え、設計をおこなっていただきたい。	井上	P16
貴賓室はあったほうが良い。また、貴賓室から大ホール(または想定するそれぞれの場所)に繋がる動線が必要である。余裕があれば造っていただきたい。	井上	P16
現在の設計案では、ピアノ庫に3台入る広さがあるのか。狭いように感じる。ピアノを置く場所が分散していても良いが、それぞれに空調がととのった保管庫が必要であり、最低3台は必要となる。	伊藤	P16